

書籍：『カウントダウン 世界の水が消える時代へ』

著者：レスター・R・ブラウン、監訳：枝廣淳子

発行：株式会社海象社

四六判 272頁

発行日：2020年8月1日

定価：2,200円＋税



<推薦の理由>

水文学の第一人者 沖 大幹氏が昨年 11 月 17 日に国連大学上級副学長として 日本記者クラブで会見し、政府が発表した 2050 年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにする目標の見通しや、日本の気候変動対策について話されました。政策の中で水素社会推進があり、個人的な見解ですが、地球の重力によって束縛されている水素が、穀物輸入国が過剰揚水で帯水層（化石水）の渇水により水の循環上、どのような問題を引き起こしか解明されない状況化の中で、各国が水素戦略への路線は慎重に対応が必要だと明言しているように私を感じていた時に出会ったのが本書籍です。

内容は、穀物輸入国の帯水層過剰揚水で恐ろしいまでの水不足の状況や見通しを抱える数多くの国が登場し、合理的なシステムであるバーチャル・ウォーター（仮想水）に対して、水との付き合い方にどう向き合うかが問われる内容になっています。

私は、作家ジェイムズ・ハワード・クンストラーが、「地域での食料とエネルギーの生産、そして水供給と汚水処理を安全に行うための基礎的な技術が、質の高い生活が悲惨な貧困かの分かれ目になるかもしれない。」と語った言葉が好きで、実現できる日を夢見ています。私の

考えは、「地域での食料」に関しては、農家同士の「分業」が的確に行なうことで、市区町村を一つの農地とみなし、ゾーニング（区分け）して、持ち回りで毎年、これまでの根菜類の作付けプランで欠けていた飼料作物や豆類などの休閑作物の位置づけとして、生産体制を農業の基本である輪栽式農業に移行出来れば、地元の農家と畜産農家の連携と地元経済への効果が期待できると思ひ、「エネルギーの生産」に関しては、地方自治体の下水処理場で下水から代替石油に匹敵する藻類バイオマス燃料を生産し、用途にあった石油製品を販売する。残った下水汚泥は、代替石炭のバイオコークスを生産し、バイオコークス原料を基にした火力発電を併設出来れば、安定した電力も供給でき、発電廃熱の活用も見込め、送配電ロスがなくなり、「経済・社会・環境」の3つのバランス面から持続可能な循環型社会の実現ができる案です。

今月 9 日 NHK スペシャル 持続可能な未来を模索する新シリーズ 2030 未来への分岐点「第 1 回 暴走する温暖化“脱炭素”への挑戦」が放映された出演者の中に 6 年前の東大本郷安田講堂開催のコスモス国際賞受賞記念講演で地球環境の限界を講演なされ、沖大幹氏と対談なされたヨハン・ロックストローム博士が「臨界点を越えると地球が暴走し、止められなくなる危険性がある Hothouse Earth（ホットハウスアース理論）」を語られました。

未来を左右する決定的な 10 年に突入していることを感じさせる今日この頃、バーチャル・ウォーターを見直す知識の書として推薦いたします。

<目次>

序文

第 1 章 世界の水不足の広がり

第 2 章 干上がりつつある中国

第 3 章 インドー地下水の低下、ほぼすべての州で進行

第 4 章 減少しつつある米国の水資源

第 5 章 パキスタン—崖っぷちの国

第 6 章 イラン—干上がった土地

第 7 章 穀物収穫量が減少しているアラブ世界

第 8 章 ナイル川が干上がる時

第 9 章 帯水層の枯渇—世界の現状

第 10 章 地球の砂漠化

第 11 章 水不足と食料安全保障

第 12 章 人類を救うことはできるのか

謝辞／著者経歴／本書に寄せて 枝廣淳子／参考文献

（紹介者：榎アカギ 近藤 茂）